

令和四年度 奈良県教育長賞

「税とは何か」

奈良県立郡山高等学校 二年 大西 勇太

税とは何か。いろいろなものに課されて、多額支払わねばならない煩わしいものか。それとも便利で私たちを豊かにしてくれる高度なシステムか。あるいは両方とも性質をもっているのか。税の本質について、あらためて考えてみようと思う。

税の本質を考えると、そのルーツを調べるのがよいと思った。「税」というものが形づくられたとき、当時それはどのようなものだったかヒントを得るために、私は漢字の成り立ちに着目した。私が想像している「税」の概念とその漢字のパーツには、脈絡が無さそうだと最初は思った。例えば、「のぎへん」が含まれているが、植物に関係があるとは思えなかったし、右の部分にいたっては見当もつかなかった。そして、インターネットを使って成り立ちを調べたところ、次のような意味があることがわかった。「のぎへん」は穀物の穂先を表しているようで、律令の時代に税として穀物を納めていたからなのだという。また、右側については諸説があるようだ。一つ目の解釈は「脱」からきているというもので、穀物を奪いとるという意味を含んでいるというもの。二つ目の解釈は、「税」からきているというもので、穀物をよろこぶ、つまり、穀物を収穫できたことに皆でよろこびを共有しようという意味だ。どちらの説が正しいかは判らないが、どちらも現代の人々の税の認識と似ている。お金を奪われると考える人もいれば、お金を共有すると考える人もいるのだ。多くの方は、前者の考えだろう。しかし、税の本質というのは後者の考えにあると思う。皆が平等に利益をうけることができるように、平等な手続きをもって集められるのが税なのではないだろうか。

税金がどのように使われているのか、私たちにどこで利益をもたらしているかを調べてみると、本当に私たちの生活の根幹部分を支えることに使われていた。そして、たしかによろこびを共有することができているなど納得することができた。「よろこびを共有すること」こそ「税とは何か」の答えであり、この考え方を大切に、税に対して肯定的なイメージをもつことが税に対して否定的に考える人が多い日本において重要だ。